



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2020.10.21

学有林での林業体験

10月14日(水)に、学有林での林業体験が行われました。中学部のへそもの(総合的な学習の時間)創造グループの活動で、学有林での学習をすることになり、愛媛県森林林業課に相談したところ、林業体験をさせていただけることになったものです。例年なら、6月頃に林業教室を開いていただいているのですが、今年はコロナ禍のため未開催ということもあり、快く引き受けてくださり、とてもありがたかったです。小学5・6年生も併せて参加させていただきました。私も、学有林は行ったことがなかったので同行させていただきました。

森林林業課の方と市農林水産課の方、計4名の先導で出発しました。学校の裏手の山に分け入って、途中なかなかの急傾斜の坂道を、休憩を細かく挟みながら登りました。35分ほどで到着。距離的にはそうでもないのですが、登るには少し決心がいる道のりだと思いました。以前は、この山道を通して通学していた児童がいたという話を聞き、驚きました。

現地に着いてみますと、地域の林業関係の方が7~8名いらっしゃって、すでにスタンバイされていてさらにびっくりです。合計で10名を超える人が、わざわざ本校の学習活動のために来てくださっている事に感謝の気持ちでいっぱいになりました。木に掛けたロープを引っ張って、関係者の操作するチェーンソーで木を切り倒すロープ間伐をさせていただきました。杉と檜を一本ずつ倒しました。その後、先端近くに残っている枝を、のこぎりで落とす枝払いをさせていただきました。

一通り作業が終わった後、中学生が取材させていただきました。地域の植生や、学有林の意義や活用方法などについての質問がありました。その中で「なぜこの職業を選んだのですか。」という質問に、「給料面からいえば決していいとは言えないかもしれないが、心意気でやっている。森は保水力を持ち災害から地域を守っている。森林には二酸化炭素を吸収蓄積する機能があり地球温暖化を防止する役割がある。その森を守っているこの仕事に誇りをもっている。」と話されました。この質問は、ぜひ他の方にも答えていただきたくて、お願いして私たちの班についてくれた4名の方全員に語っていただきました。それぞれの言葉で仕事に対する使命感や誇りについて述べていただき、児童生徒にとって大変貴重な経験となりました。本校では、多くの方々が講師として来ていただけますが、講義の内容そのものも大事ですが、職業に対する誇りであるとか、その人の生き方に触れることが大事だと思っています。それが、まさにキャリア教育だと考えています。市の農林水産課の方は若い女性の方だったのですが、「この仕事をしたいという思いで大学でも勉強して就職した。市役所はどの部に配属されるかはわからないが、自分がしたかった部に配属されてありがたく思っている。大学でも、林業を勉強している人の半分は女性になっている。」と話されたことが強く印象に残りました。道具がよくなり、女性でもできる仕事になってきていて、実際、林業の現場に女性がどんどん増えているという話もお聞きしました。

帰りに、少し大きめのコースター状に切断された木の輪切りを一人ずついただきました。みんな大喜びでした。檜の香りを嗅いで、「いいにおい〜」と声を上げていました。

短時間のかかわりではありましたが、3つの団体から来られているにもかかわらず、皆さん仲が良く、人柄の良い方ばかりであることが伝わってきました。「山男山女に悪い人はいない」は本当だなと感じました。命の危険もある中で、チームでする仕事なので、お互いの信頼関係が大事なのだという話を聞いて納得しました。私個人としても、とても学びが多い学習となりました。